

て、次のとおり説明があった。

- コーディネーターは入り口の相談業務を行っており、実験については、担当者とコーディネーター共同で、解析まで支援している。現在、業界共通の課題について、研究会を設けて対応していくしくみを考えている。
- 成果専有はタッチしていない。利用者が自ら実施するという前提であるため。ただし、実際には対応している例もある。

また、産業界からの利用状況について確認があり、これに対して、次のとおり説明があった。

- 現在全体での採択率は70%。厳しいところで倍率は3倍程度。
- これまで20%を目標にやってきた。現在20%程度である。
これ以上増やすためには、ビームラインを増やすか運転時間を増やす必要がある。
- 1/3が初心者、1/3が3～5年先を考えた利用。また、全体の2割位が、事業展開に関する利用であり、ここへ対応するものがない。
成果専有で対応すればよいという話もあるが、成果専有では、現状自らが利用するという前提である。

このほか、運転時間、運転方法に関する意見が出された。

続いて、渡辺より、課題のまとめ（「多様な課題が顕在化」）について説明があった。

また、検討いただくバウンダリコンディションについて、次のとおり説明があった。

- ・ビームラインは現状の25本、ビームタイム割合は、現状どおり全体の20%で考える。
- ・どう運用していくと効率よく使え、採択率が改善し、成果が出せるか。
- ・成果専有利用料とともに、収入事業の展開を考える。（それを原資に何年後かにビームライン建設へつなげる）

（4）産業利用の青写真について

渡辺より、産業利用の青写真に関する次の資料について、説明があった。

- ・SPring-8の現状と課題
- ・SPring-8産業利用の将来展望
- ・SPring-8産業利用も今後の進め方

（5）今後の進め方など

石原より、議事録で今回の議論を整理し、次回具体策について議論することについて提案がなされた。次回は10月に開催することとされた。

また、次のとおり、意見が出された。

- ・具体策には、知財、他機関とのアライアンスなどについて盛り込むべき。
- ・海外施設の状況を次回まとめてもらいたい。運用、契約の形態など。

以上